

聖霊降臨節第 10 主日礼拝説教要旨(7 月 26 日)

『罪ゆるされて』 清瀬弘毅教師

マルコによる福音書 2:13-17

主イエスの伝道の旅は多忙であった。一日中宣教して、カファルナウムに戻りました。カファルナウムには税関があり、徴税人が通行人を監視していました。その一人に、レビと言う人物がいました。当時、ユダヤはローマの支配下にあったので、税金はローマに納められていました。当然、徴税人は人々から嫌われていました。だからレビは、人生の深い苦悩を味わっていたに違いありません。そのような彼に、主イエスがお声をかけられたのです。“私に従って来なさい。”レビはすぐ立ち上がって従って行きました。

感謝と喜びに溢れたレビは、自分の家で、主と弟子達をはじめ大勢の人を招いて食事の席をもうけました。しかし、そこにファリサイ派の律法学者達がいて追及します。“何故、あなた達の先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか。”ユダヤにおいては、律法を守る者が正しい人で律法の外に生きる者は皆、罪人だった。多分、そこには外国人もいたのだろうと推測出来ます。外国人と交わりを持ち、税金を徴収する者達は皆、罪人だと考えられていたのです。そういうレビの家で、食事をしている主イエスに対する、律法学者達のまなざしは厳しかったのです。だから、主イエスは彼らにはっきりと語ります。「わたしは正しい人を招くためにではなく、罪人を招くために来た」。

主イエスがこの地上に来られた目的は、人間の罪のゆるしと魂の救いである。神の御前に、真の悔い改めと救いを願う人こそ、イエス・キリストの十字架の福音を受けるにふさわしい者である。その事を、私達は、このレビの招きを通して、教えられたいものです。